

お天気解説 アキラのズバツと

温暖化による影響シリーズ
「温暖化と雪」その3

雪は天から送られた手紙である

令和5年12月15日

江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

「雪は天から送られた手紙である」。この言葉は雪の結晶の研究者である中谷宇吉郎氏が残した有名な言葉です。雪をよく見ると、きれいな六角形をしています。種類が多く、花のような形、針や枝のような形、板や鼓のような形など様々ですが、共通していることはみな六角形なのです。

右写真は上から「樹枝六花」「角板付樹枝」「扇付角板」と呼ばれる美しい結晶です。

黒っぽいセーターに降ってくる雪粒を乗せると、肉眼でも結晶が見えます。スマホでも写真がきれいに撮れます。

これら雪の結晶は上空の気温と水蒸気量によって決まることを発見したのが中谷宇吉郎氏です。「雪は天から送られた手紙である」とは、雪の結晶が上空の気象状況を知らせてくれるからです。

地上まで氷点下の時に降る雪はサラサラして乾いた感じがします。雪片どうしがあまり付かないので、粒が細かい「粉雪」として降り、結晶が地面に落ちても見られます。でも、雪だるまや雪合戦のために球を作ろうとしてもなかなかできません。

気温が0℃より上がると結晶は崩れ、雪片どうしが付いて

大きい粒になります。東京でよく見

る「ぼたん雪」はこの類で球を作りやすいです。水分が多いので積もるのに時間がかかり、積もった雪を踏むと靴の跡から水が出てきます。乾いた雪は積もりやすく、踏んでも水は出てきません。東京でも乾いた雪は氷点下の時に降ることがあり、滑りやすく転ぶ原因になります。次回「温暖化と雪」のシリーズは「暖冬と降水量」です。

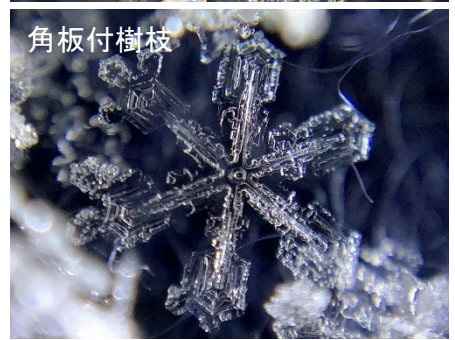


写真 雪の結晶3種
気象研究所 荒木健太郎氏による

2023年12月15日11時 気象庁 発表				
日付	今日 15日(金)	明日 16日(土)	明後日 17日(日)	
東京地方	曇一時雨	曇	晴時々曇	
降水確率(%)	-/50/10	20/20/10/10	20	
信頼度	-	-	-	
東京 気温 (℃)	最高	13	18	16 (15~18)
	最低	-	10	6 (4~7)

東京地方の週間天気予報より

気象庁HPから抜粋

(週末まで暖かそうですが、来週は厳しい寒さがやってきそうです。)